

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2991000015		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム香芝 (青空ユニット)		
所在地	奈良県香芝市五位堂 1丁目341-1		
自己評価作成日	平成27年1月20日	評価結果市町村受理日	平成27年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2991000015-00&PrefCd=29&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成27年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

① お一人お一人の認知症状を把握し、原因となる病気について理解を深め、個別に専門的なケアを行っています。日常生活の様々な場面で、機能訓練を行いながら自立部分の継続を目指しています。日々の日課や習慣(体操や家事全般に加わっていただく。食事・入浴・更衣時の選択の自由)を大切にしています。
② 食べる為の機能を個々に見極め観察を行っています。同じメニューでも、お一人お一人の食べる為の能力に合わせ 提供の方法を個別に対応しています。安全に、ご自身の意欲を引き出しながら、口から食べ・飲んでいただける事を継続できるよう工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは利用者・家族に質の高い介護サービスを提供したいとの精神を大切に、今年度のホームビジョンに「真心を尽くす(全ての人に思いやりと誠意を行動で示す)」と謳い、それを踏まえた具体策のもと職員は日々のケアを笑顔で心がけ実践しています。利用者が思い思いに寛げる居場所を作り、利用者はユニット間を自由に行き来し、気の合う方が集い談笑できる場となっています。また職員は利用者の状況を判断し、個々の要望や身体の状態に合わせた食事の提供など、利用者の健康管理と共に楽しみのある暮らしへと繋げています。看取りの支援ではいつでも往診に対応してもらえる医師の協力や看護師の職員が医師と連携を図り、意向に添って安心して最期まで過ごせるよう、本人・家族の満足が得られるケアを目指し取り組んでいるホームです。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念の1つに「その人らしい、快適で穏やかなシルバーライフを常にサポートします」とあります。馴染みの地域で、自宅での暮らしの中で大切にされていた事や習慣を大切に支援を行っています。	法人の理念を基に管理者がホームビジョンを毎年作り、玄関、スタッフルーム、事務所に掲示し、ビジョンに込めた思いと具体策を全職員に伝えています。真心を尽くしたケアを日々実践しているか職員のケアの様子や管理者が気がついた事を個々に伝え、意識できる機会にしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアや保育園との交流は定期的にあります。地域の方から農作物を頂いたり、近隣に住むご友人がホームへ遊びにいらっしゃることもあります。	回覧版や市の広報誌で地域の情報を得て、十二支神社の行事などに出かけています。保育園の運動会では後日ホームの為に開いてもらい玉入れなどに利用者が参加したり、散歩時にも立ち寄ってもらえる関係が継続されています。近隣から農作物の差し入れが届いたり、紙芝居、歌体操、沖縄三味線等のボランティアの来訪があり、利用者の楽しみとなっています。今後、認知症カフェをホームで開催したいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後は地域の企業向けに、市と連携しながら「認知症サポーター」研修を実施する予定があります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で受けた要望やアドバイスは、ご利用者様の個別の外出支援や行事の開催につなげています。また、ホーム内で行ったイベントについても地域の事業所へ取り組みを発信しています。	会議は、複数の行政担当者、地域包括支援センター職員、地域住民、家族等の参加の下隔月に開催し、写真や資料を基に行事や研修の報告をしています。参加者の意見から外出の機会を増やしたり、地域の情報を得て外出行事に取り入れています。会議録は玄関に置き閲覧できるようにしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム内の様々な変化や変更については、事前に相談・報告を行いアドバイスや指導をいただいている。	申請関係や事故報告等で窓口へ出向き、ホームの実情を伝えています。市の依頼を受けグループホーム連絡会を発足したり、市と連携して認知症サポート養成講座や認知症カフェの開催などを話し合っており連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠(18:00~9:00 除く)は行わず、ご利用者様の行動を制限しないよう工夫し、都度対応するよう努力している。	身体拘束について毎年研修を行い、具体的な禁止行為を掲示して伝え、欠席者には資料で伝え周知しています。職員には日々業務優先ではなく利用者を優先して対応するよう伝え、玄関は開錠し外出される時は職員間で連携し一緒に付き添ったり離れて見守る等、その方に合わせて対応し拘束のない自由な生活を支えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止」についての研修を実施。正しい情報・知識を学ぶと共に虐待が見過ごされる事のないよう注意し、防止にも努めています。		

愛の家グループホーム香芝（青空ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者として、成年後見制度について学ぶ機会はあるが、職員に浸透できていない。個々に必要性がある場合は支援を行うことはできる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度疑問点や質問を確認しながら説明している。理解や同意が得られるまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、ご家族様アンケートを実施。フリーコメントでご要望やアドバイスをいただき改善を行っている。	家族の面会時には居室で様子を伝える中で意見や要望を聞いたり、特に医療面や看取りについての意見は看護職員、管理者などが聞いています。プラン見直し時に聞いた個別の意見も内容によっては全体で体操をしたり、料理や掃除等を利用者が関わりながら楽しめる出番作りに活かされています。年1回法人の行うアンケートの結果を玄関に掲示し、出された意見によっては速やかに検討と改善に向け取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや全体会議、日々の引継ぎの中で意見や情報を共有し、具体的な対策に活かしている。	毎月各フロアで行なうカンファレンスと日々の引継ぎの中で職員の意見を聞き、全体の意見や情報は伝達事項として回覧で通知しています。行事担当者が企画を提案したり、排泄用品の種類変更などの提案もあり、事務職員も含めて全職員が意見を出せる機会があります。管理者はリーダーが聞いた職員の意見や様子にも気を配り意見を言いやすい雰囲気作りを心がけています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップのチャンスとして資格支援制度、また資格取得の為のフォローアップも行っている。昇給についても毎年見直し、評価も加わっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人向け研修やホーム内研修を行い、学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所と合同で研修を実施したり、他ホームへ利用者様と訪問した。他サービス事業者が現場研修に訪れる機会も設けている。		

愛の家グループホーム香芝（青空ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の言葉や行動に寄り添い、何に不安を感じ何に安心されるかを記録している。引継ぎをしながら情報共有に努め、馴染みの関係作りができるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には出来る限り情報を提供いただき、自宅での過ごし方を伺います。ご家族が望まれるサービスの内容を具体的に提案できる話し合いを出来るよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の時点で、ご本人の状態・状況によっては、グループホーム以外のサービスも提案いたします。「その時」必要な望まれるサービスの提供に努めている。（医療との連携は特に慎重に行う）		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がこれまでの生活習慣で養われたものは、出来る限り発揮していただけるよう他の利用者様との関係も含め、職員が配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には、最もご本人を理解される存在として、入居後も相談・報告を心がけ、一緒に支えていただきながらご家族の支援にも努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様にも協力頂きながら、馴染みの人や場所を伺い関係が途切れないよう、一緒に支援出来ている方もいる。	友人、知人の来訪時には、寛げる場所を選んでもらい写真を撮ったり、次回の来訪に繋がるよう配慮し家族にも報告しています。関わりの中で知った馴染みの場を家族に伝えたり、家族から聞いた馴染みのパチンコ店や美容室へ職員が同伴して行っています。自宅に郵便物を職員と取りに行ったり、自作の俳句をハガキに書いてもらい投稿する等関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が日々の生活の中で、利用者様同士の関係作りや環境に配慮している。		

愛の家グループホーム香芝（青空ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去後も、出来る限りの情報提供を行い、必要な時には相談に応じ支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族様に伺いながら、暮らし方や意向・思いに添えるよう工夫し対応している。	面談時には自宅を訪問し本人、家族から生活歴や趣味等の聞き取りを行い、暮らしの様子や拘りの品等を写真に撮らせてもらい、職員間で共有し居室の環境づくりや思いに沿った暮らしに活かしています。関わりの中で得た職員の気づきは介護記録に記載し全職員で共有しています。把握が困難な時は家族に相談したり、表情などから思いを汲み取れるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅の様子を見せていただいたり、ご家族にお願いし、情報の提供を书面で頂く等し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の役割や個別の記録、引継ぎ(スタッフ間の情報共有)で状態・状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで現状に即した介護計画が話し合い、ご本人にとってより良いものとなるよう努めている。 日々の状態を報告した上で、ご家族の希望や要望を伺い反映している。	本人、家族の思い、アセスメントを基に介護計画が作成されています。観察記録を基にモニタリングと評価を行いカンファレンスのもと3か月毎に見直しています。サービス担当者会議には出来る限り家族にも参加してもらい、入居後の情報はアセスメント表に追記し、6ヶ月毎に再アセスメントを行い、誰もが分かりやすい介護計画の作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践については、個別の介護記録や日報へ記入している。状態や状況が変化し、観察の必要がある場合にはセンター方式を用いて一時的に記録もしている。 (医療と連携する為、必要な時もある)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族に相談し様々な提案をしながら、ご本人にとってより良いサービスの提供が実施できるよう取り組んでいる。個別性を重視している。		

愛の家グループホーム香芝（青空ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用しながら、お一人お一人の暮らしを豊かに楽しく過ごしていただく為の工夫は行っているが、まだまだ出来ることがある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望を尊重し、往診医と相談していただきながら、早期適切な対応が受けられるよう支援している。	かかりつけ医を継続されている方は家族が受診に付き添い、書面で情報交換を行い受診結果の報告を受け、検査など状況によっては職員も付き添っています。24時間連絡が取れる協力医は利用者毎に月2回の往診があり、随時の往診にも対応が可能で看護職員との連携が図られています。訪問マッサージや訪問歯科は希望する方が利用しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に体調管理表やご本人の「いつもと違う事」を看護師へ申し送り、個々の状態に合わせ適切に受診・服薬の指示が得られるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際、個々の状態や経過を医療機関と情報共有・交換に努めている。、退院できるまでの間連携し、フォロー出来る範囲で対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と話し合い、事業所で出来る範囲をお伝えし、書面で明確に説明した上で了承の下、全職員で支援に取り組んでいる。	入居時に看取りの方針やホームでできることを説明し、変わっていく状況の変化は医師が家族に伝え、家族の思いを再確認しています。家族の協力を得た上で医師や職員と方向性を共有し、看取りを行った事例があります。入職時には職員に看取りの支援を行う事も伝え、看護職員による具体的な対応方法をケース毎に学び、相談できる体制を整え職員の安心に繋げています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の連絡体制、対応については状況に応じ、医療従事者へ指示を仰ぐよう周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練実施。地域の防災訓練にも参加している。全職員がAEDや消火器の使用について訓練を受けている。	年2回、消防署の協力の下で昼夜を想定した訓練に利用者も参加し、通報、初期消火、避難誘導などの訓練を行うと共にAEDや救急救命についての指導とアドバイスをもらっています。近隣へはチラシで案内し幼稚園や地域からも見学に来ています。運営推進会議では案内と報告を行い、地域の防災訓練へ参加しています。食品やコンロなどの備品を準備しています。	

愛の家グループホーム香芝（青空ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を知り、プライバシーに配慮した言葉かけを心がけて対応している。	人格の尊重などは今年度のホームビジョンでもあり、特に力を入れて取り組んでいます。接遇マナーについては入職時と年1回研修を行い職員に周知し、個々の利用者が分かりやすい方言等で対応する際にも常に人格を尊重するよう心がけ、カンファレンスで学ぶ機会を持ち職員間で共有しています。不適切な対応はリーダーや管理者が注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人へ確認しながら、言葉だけでなく表情や仕草で思いを汲み取れるよう、働きかけるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日に職員同士で話し合い、お一人お一人の様子に合わせ、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の使用されていた化粧品や洋服など提供いただき、ご自身で出来る限り準備いただけるよう見守っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お食事が出来る様子はもちろんですが、配膳や後片付けも含め、食事の楽しみになるよう環境を作る努力をしている。	本社から届いた献立を基に専任の調理担当職員が食材の発注や食事を作り、職員は利用者のその日の状態や好み等の情報を担当者に伝え、個々に合わせた食べやすい内容で提供しています。月に1回程度は行事食や鍋物、手作りおやつ等を材料の買い物から下拵え、後片付けまで利用者と一緒にしています。寿司の出前や弁当を持って公園へ出かけたり、外食にも行っています。職員は介助をしながら一緒に食卓で食事を摂っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量については、個々に記録している。体重の変動やその日の状況 前後の日も含め情報共有しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時とや毎食後、お一人お一人に合わせて口腔ケアを行っている。ご家族様や歯科医と連携し対応している。		

愛の家グループホーム香芝（青空ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状況に合わせて、一日の中でも状況により使用方法を話し合いながら変更し、個別の支援を行っている。	排泄記録を参考に個々の状況に合わせて声をかけや誘導を行い、トイレで排泄ができるよう支援しています。夜間は紙パンツを使用している方も、日中は布の下着とパッドで快適に過ごせるよう支援しています。サンプル品などを参考に本人に適した排泄用品の検討を重ね、現状維持ができ失敗に繋がらないよう排泄の支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物や飲み物で工夫し、医師・看護師とも連携しながら個々に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ケアプランにも加え、ご本人の希望やタイミングに合わせて入浴が出来るよう工夫している。曜日や時間帯もご本人に都度了承いただき実施している。	入浴は週に2、3回を目途に日中の時間帯に支援し、毎日入られる方や自立に近い方は夕食後に職員が見守り入ってもらっています。好みのシャンプーを使う方や入浴剤、柚子で季節湯を楽しんでもらったり、入浴後のノンアルコールビールや好きな飲み物を楽しみに入浴されています。職員の気づきとアイデアで強い拒否の方はなく、仲の良い方と一緒に湯船に浸かる方もおり、入浴を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状態に合わせて、体を休めていただけるようケアを統一している。安眠体位・リラックスいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師・薬剤師の指示の下、状況や薬剤情報の変更がある都度、支援方法や情報の理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割として洗濯物や食事作り、掃除にも積極的に関わっていただけるよう工夫している。個々の趣味や楽しみに合わせ、図書館・買い物・畑作業・日曜大工・散歩を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の会話の中やご家族様からのアドバイスも頂きながら個別の外出は実施できている。ご家族様にもご理解いただき、ご本人の希望される場所に出かける機会を心がけている。	雨の日を除き車椅子の方も毎日散歩をしたり、畑の世話や洗濯物干し等、戸外で過ごす機会を多く作っています。初詣や季節の花見では桜、梅、ツツジ、チューリップなど多くの花を見に出かけています。個々の希望を聞いて東大寺、水族館、外食、スーパー等へ出かけたり、毎月図書館へ本を借りに行く方もおり、個別の外出支援を大切にしています。	

愛の家グループホーム香芝（青空ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出支援の中で、個人で支払いをお願いしている。散歩の途中でも買い物でも、支払う機会を作り支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に寄り添えるよう、ご家族にも協力いただきながら電話や手紙 写真などでやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロア内には季節や日時が分かる物、一日の状況(天候や・気温)にも注意し、皆様が居心地が良い空間作りに日々努めている。	玄関やユニット間の廊下、リビング等の共用空間は広いスペースからなり、廊下の端に設えたベンチは利用者が「集会所」と称し、気の合った方々の居場所になっています。利用者にも出入りしやすい和室やソファ、椅子、テーブルの配置を工夫し随所に寛げる場があります。壁飾りや手作り作品も飾り、温かい雰囲気作りを行っています。日差しや室温なども利用者に聞き調整したり、乾燥対策や清潔にも留意し、居心地のよい共用空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中には、個々が座りやすい椅子やソファの配置、個室を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前や入居後も様子をお伝えしながら、ご本人の馴染みや好みに合わせ環境を整えるよう配慮している。	面談時に自宅の環境を写真に収めさせてもらい、その人らしい居室作りに活かしています。仏壇や自宅で使っていたソファやテーブル、テレビ等の他、DVD、裁縫道具、本、アルバム等を身近に置き、これまでの生活スタイルに合わせた配置の工夫をし安心して過ごせる居室となっています。また入居後も家族と自宅へ行き、使っていた馴染みの物を持ち込んでもらうこともあり居心地よく過ごせる居室となるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人のお部屋やトイレ、休憩スペースなど建物内部では、安全な移動や自立が支援できるよう心掛け工夫もしている。		